

## 裁判員経験者との意見交換会 (令和3年11月22日(月)開催)

法曹三者(裁判官・検察官・弁護士)と裁判員・補充裁判員経験者のほか、裁判員未経験者にもご参加いただき、裁判員裁判に参加することへの不安を軽減することを目的とした意見交換会(座談会)を開催し、以下のとおりご意見・ご感想をいただきました。



裁判官

裁判員裁判に参加した感想をお聞かせください。

- ・ 赤ちゃんが生まれたばかりで迷ったが、とてもやりがいのある仕事で、やってみて良かった。
- ・ 司法制度を普段身近に感じる事がないので、司法制度の素晴らしさやそれを支える方々の姿を見て感謝や敬意を感じることができた。
- ・ 自分が社会の一員であることを実感できたのが良かった。
- ・ 自分自身ももっと(法を)守っていかなければいけないと思った。
- ・ (評議の場は)もっと重々しい雰囲気と思っていたが、そこまで堅苦しくなく、一般的な感覚を言える場だった。
- ・ 裁判は怖いと思い参加するか悩んだが、普段出会わないような方々とも話げできた。裁判が終わった後も、物事を深く考えるようになり、自分の考えに奥行きが出ていると思う。
- ・ もっと社会が(裁判員裁判について)理解してくれたらいいなと思う。
- ・ 判決が出るまでには大勢が関わり、話し合いや葛藤があることを知り、ニュースの見方が変わった。判決の結果だけでなく、事件そのものや判決が出た際の背景を想像するようになった。
- ・ 裁判のプロセスは報道されないため、裁判自体と疎遠であった。裁判は最初から決まりきったことをしているだけだと思っていたが、判断には人間味があることがわかった。



経験者



裁判官

裁判員選任手続の案内状が届いたときの心境や都合の調整についてお聞かせください。

- ・ 息子が1歳で子育てが大変な時期ではあったが、会社や家庭の理解を得ることができた。
- ・ 日程が10日間に及び、3人の子供(小学生2人、未就学児)を抱える主婦で、子供と長時間離れたことはなかったが、両親や夫、時には近所の友人に助けをもらうなどしてなんとか対応できた。
- ・ 高3の娘の大学受験が始まる直前だったが、娘から自分のために絶対に辞退しないでと背中を押され、参加することにした。
- ・ 人事関係の仕事に加え、乳児2人を抱えていたが、妻と上司の理解があって参加できた。(人事の仕事は交代が難しいので)仕事の関係では事前にマニュアルを作成した上で、逆算して応援態勢を組んだり、上司に代わりをお願いしたり、裁判中も朝夕にメール等で連絡を取り合って対応した。
- ・ 休暇制度など制度面が充実されれば、どんな環境の方でも参加できるようになると思う。
- ・ 勤めていてもなんとかやりくりして調整できると感じたし、むしろ少しの間自分がいなくても仕事が回るようにしなければいけないと思った。



経験者



未経験者

審理期間が長いと仕事の関係上参加は難しくなります。審理期間は事前にわかるのでしょうか。  
また、審理期間が10日間程度になった方は、仕事をどのように調整しましたか。



裁判官

裁判所にお越しいただく日(審理期間)については、事前に確定させてからお知らせしています。

- ・ 一人で自営業(理髪店)をしているので裁判員裁判に参加している日の収入はゼロになってしまうが、社会秩序がどのように成り立っているのか司法への興味があった。顧客はほぼ常連客のため、事前に休業の理由と日程を周知することで理解をいただき、調整することができた。
- ・ 中高の子供を抱えるシングルマザーであるが、勤務先に裁判員制度用の休暇制度があり、また、土日仕事を入れてもらうようシフトを調整してもらうなどして対応することができた。
- ・ 二か月前に通知をもらっても、すでに仕事のスケジュールが入ってしまっていることが多いので調整に苦労した。少なくとも三か月前には通知がもらえると助かる。



経験者



未経験者

裁判員や補充裁判員に選ばれてから判決に至るまでの間に、印象に残った手続があれば教えてください。

- ・ 証人に質問したかったが、緊張で声が出ず裁判官に代わりに質問してもらったことがあった。とても落ち込んだが、翌日は勇気を振り絞って質問することができた。二度とできない経験だと思うし、自分でも頑張れたと思った。
- ・ 被告人本人に質問を投げかけたことは印象的だったが、一番印象に残っているのは評議で、判決を出すときも全員で悩んで考えて結論を出したので重みがあったし、様々なバックグラウンドを持つ方がいるといろいろな意見が出て、ものの見方の多様性が刺激的だった。



経験者



裁判官

公判審理に立ち会ってみて、わかりやすかったか、理解できたかなど、感想をお聞かせください。

- ・ 周りに法律に詳しい方はいないし、会社にいる弁護士とも犯罪のことについて話すことはないが、わかりやすくきちんと整理された資料を作ってもらえて理解しやすかった。裁判官も論点を丁寧にまとめてくれてわかりやすく話をしてくれた。
- ・ 冒頭陳述の資料が、1枚の紙に要点がまとめられていて、重要部分がカラーであったり図を用いたりして見やすくなっており、なじみがない人でもわかりやすいと感じた。
- ・ 審理が進んでいくと資料が増えてきて、見たい資料を探すのが大変だった。自分なりに資料に付箋を付けていたけれども、資料をゆっくり見直して自分の中でまとめる時間が欲しかった。



経験者



検察官

資料はわかりやすく作成するよう工夫しており、A3又はA4サイズ1枚にまとめ、箇条書きにして、矢印や色などを使って視覚的にわかるようにしています。また、写真や図を使って文字だけにしないようにしています。



弁護士

資料や映像はもちろん、冒頭陳述や尋問の際に口頭で述べる内容もわかりやすく聴いていただく必要があると考えています。そのために、実演型の研修を行って自分の姿を撮影して確認したり、また、裁判員の方々のアンケート内容も研修に反映させるなどしてわかりやすさの向上を図っています。



裁判官

未経験者の方からも結論に迷いはなかったかとの質問を事前にいただいておりますが、評議について、自分の意見を十分に述べた上で議論できたかお聞かせください。

- ・ 評議の運営を工夫してもらい、意見を言いやすい雰囲気を作ってもらえた。
- ・ 補充裁判員だったので結論を出す際には直接関われないが、それまでの議論には補充裁判員であると感じさせないような雰囲気に参加でき、話を聴いてもらえた。
- ・ 裁判長が順番に話を聴いて結論に至った感じで、後悔などはなく、きちんと時間をかけて議論して答えを出せたと思う。
- ・ いろいろな方がいるので、感情的になったり、どちらかの意見に偏ったりすることもあったが、裁判官が整理してくれた。
- ・ 後悔はなかったが、自分が担当した事件が気になって控訴審を傍聴しに行き、自分なりに納得できた。
- ・ 後で悩まないようにどんなことでも(尋問中に)質問してかまわないと言われ、難しい言葉も休憩中に裁判官が丁寧に説明してくれた。



経験者



裁判官

裁判官としては、裁判員制度の趣旨を考えて、裁判員の方々が考えていることを余すことなく評議の場に出していただき、議論が尽くされた状態にならなければいけないと考えています。

裁判官と裁判員の方々とのコラボレーションを意識しながら取り組んでいます。



裁判官

最後に、今後の裁判員候補者の方々へメッセージをお願いします。

- ・ 忙しくても周りの後押しがあれば参加できるという方もいると思うので、自分も勤務先でできることをやっていきたいし、せっかくの機会を無駄にせず積極的にチャレンジしてもらいたいと思う。
- ・ 自分とは違う視点を受け止めることで学ぶことが多く、自分の成長にもつながった。
- ・ 法律知識よりも一般人としての感覚や常識の方が大切だと感じた。
- ・ それまでは(3人の子供の)育児しかしていなかったが、参加したことで、なんとかなることがわかり、日中仕事をするようになったり、できないと思っていたこともできるようになった。普段からニュースを見て調べるようになったし、子供に法学部の受験を勧めたいと思っている。
- ・ 裁判官から、(刑事裁判は)黒か黒ではないかを決める手続きであると聞いてなるほどと思った。話を聞くことと経験することは違うので、ぜひ経験してもらいたいと思う。
- ・ 裁判員の経験が良いものであったという96%の経験者の中に自分も含まれている。自分が担当した事件の裁判を子供にも傍聴させて、法廷での出来事について家族内で有益な話ができたと感じた。これから候補者になる人には、せっかくの機会を自ら放棄しないでほしいと伝えたい。
- ・ ニュースを見た時の受け止め方が変わるし、ものの見方が変わる。どのようにして平和で公正な社会が守られているかを知ることができた。
- ・ 予習できずに裁判員になったが、知識がなくてもまったく問題なかったので、通知が届いてもご心配なくと伝えたい。



経験者



検察官  
弁護士

様々なバックグラウンドを持つ方々からの質問や意見は貴重で、そこから気付くことも多いので、予習などはせず素の状態に参加してもらいたいと思います。本日の経験者の方々のように、裁判員制度に関心を持って、真剣に向き合ってくれる方が増えてもらいたいと思います。



裁判官

経験者の方々の話を聴いて、裁判員裁判をより良いものにしていくための努力を続けていかなければならないという気持ちを新たにしました。